



- 南紀白浜空港から羽田空港へ 約1時間10分
- 和歌山市まで 関西国際空港からバスで 約40分 大阪市内中心部から車で 約1時間
- JR
- 新幹線
- 南海電鉄
- 高速・自動車専用道路
- 京奈和自動車道
- 主要道路
- 今号の取材先

和歌山県では、取材への積極的な協力・現地情報の提供等を行っています。

お問い合わせ
和歌山県広報室
TEL 073-441-2032 FAX 073-423-9500
e-mail nagomi-waka@pref.wakayama.lg.jp

県外にある情報コーナー
東京 わかやま暮集館
東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館地下1階
TEL 03-3216-8000 FAX 03-3216-8002
e-mail wtkankou@sepia.ocn.ne.jp
案内時間 10:00~19:00(日曜、祝日は17:00まで)
休館日：年末年始

名古屋 和歌山県名古屋観光センター
名古屋市中区栄4-1-1 中ビル4階
TEL: 052-263-7273 FAX: 052-265-0327
e-mail wakayama758@crocus.ocn.ne.jp
案内時間 9:00~17:45(月~金) ※祝日・年末年始は除く

和歌山県フォトライブラリー(写真貸出)
http://www.pref.wakayama.lg.jp/photo/

PRESENT 北山村特産「じゃばらジュース」を5名様にプレゼント

北山村特産のじゃばらを使用した「じゃばらジュース」1ケース(30本)を、5名様にプレゼントします。じゃばらとダイダイで割った飲みやすいドリンクです。本誌のアンケートはがきでご応募下さい。締め切りは8月25日、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

企画・発行/和歌山県
発行日/平成20年7月30日
編集/(株)エフピーアイ・コミュニケーションズ
印刷/(株)恒陽社

wadai 04

姉妹道提携10周年、「巡礼の精神」写真展

和歌山県とスペインのガリシア州が「祈りの道、サンティアゴ巡礼と熊野古道」の姉妹道提携を結んで10年になる。記念イベントとして、5月23日~6月1日まで和歌山市内のギャラリーで、ルイス・オカニャ氏の写真展を開催した。

サンティアゴ巡礼の精神を伝えるサモス修道院の写真40点を展示。セレモニーでは、巡礼道の保全・活用を行うガリシアの企業担当者が講演したほか、参加者にはガリシア料理やワインも披露、地元写真部の高校生とも交流を深めた。

県は今年、10周年を機にガリシア州と国際観光共同プロモーションを行う。「祈りの道」写真展、ミニ観光物産展、郷土芸能や料理の披露、ツアーデスクなどを、田辺市(9月4日~ビッグU)、パリ(9月)、サンティアゴ(10月)、東京(12月16日~相田みつを美術館)で実施するほか、今後、観光客誘致など相互に協力しあう。

(上) サンティアゴ巡礼の道にあるベネディクト派サモス修道院
(下) 盛況だった写真展のオープニングイベント(中央がオカニャ氏)

wadai 05

トルコ大統領が串本の慰霊碑訪問

トルコのアブドゥッラー・ギェル大統領が6月7日、本州最南端の串本町にあるトルコ軍艦「エルトゥールル号」の慰霊碑を訪れ、犠牲となった乗組員の追悼式に参列した。大統領は約580名の将兵を祭る慰霊碑に献花し、和歌山県知事や串本町長らとともに追悼の言葉を述べた。

日本ではあまり知られていないが、1890年、串本町大島沖で遭難した軍艦の乗組員を住民が献身的に救助した。このことは、今もトルコの人々に語り継がれている。後に1985年イラン・イラク戦争の最中、イランの首都・テヘランから日本人を脱出させるため、トルコが救援機を送ってくれたという話につながる。エルトゥールル号の悲劇を救った和歌山人の心がトルコの人々の中に今も生きている証だ。

慰霊碑の前で追悼の言葉を述べる

wadai 06

坂本冬美さん、新曲「紀ノ川」PRで県庁訪問

本県出身の歌手、坂本冬美さんが故郷を歌った曲「紀ノ川」PRのため、6月18日、仁坂吉伸知事を表敬訪問した。

和歌山を舞台にした曲はデビュー22年目で初めて。有吉佐和子の同名小説がモチーフで、「羅生門」、「雪国」に続く文学作品シリーズ3部作となる。「故郷の川の流れと母の想いを重ねあわせて聞いてほしい、代表曲にしたい」と意気込みを語る坂本さんに、知事は「和歌山の顔として期待しています」とエールを送った。

仁坂知事を表敬訪問した坂本冬美さん

wadai 02

セーリング競技 ナショナルトレーニングセンターに決定

“海洋県・和歌山”がいよいよ全国的に有名になりそうだ。

去る5月28日、和歌山県(和歌山セーリングセンター)は、文部科学省によりセーリング競技の「ナショナルトレーニングセンター(NTC)」に指定された。

NTCとは、世界で活躍するトップレベルの選手やジュニア・ユースの強化育成するためのトレーニング施設。NTC本体は東京都内にあるが、競技の特性により条件のよい場所を「NTC競技別強化拠点」として指定している。拠点施設があるわかやまマリーナシティにヨット機能が充実していること、また海のコンディションの良さ、関西国際空港へのアクセスの良さなどが評価された。今後、海洋スポーツの拠点として国際級のレースをはじめ様々なイベントも予定している。

トップレベルの大会が催される和歌浦湾

wadai 03

熊野古道にニューフェイス 「霧の郷 たかはら」

世界遺産・熊野古道の中辺路ルートにある高原地区に、和歌山県観光連盟の宿泊施設「霧の郷たかはら」が4月20日オープンした。

熊野の聖域の入り口といわれる滝尻王子から歩くこと約2時間(車で約15分)。熊野の連綿たる山並みと棚田が美しい人気スポット。標高約300m。雲海に煙る幽玄の景色を求め、早朝から待機するカメラマンも多い。

紀州材を使った優しい室内。雄大さに包まれ、浸るお湯は、熊野本宮の渡瀬温泉。地元産野菜の田舎料理が自慢。ほかにも陶芸や平安衣裳を身にまとうといった田舎体験プランがあり、地域一体となっておもてなしが魅力。もちろん熊野古道に詳しいスタッフから古道情報もしっかりキャッチできる。

田舎裏を囲むのも美しい天空の宿

wadai 01

たま駅長、ついに映画デビュー

今、日本で一番有名な猫と言えば、和歌山電鉄貴志川線・貴志駅のたま駅長だが、その活躍がフランス人映画監督の目に留まり映画出演が決定、5月16日、17日に撮影が行われた。

出演するのは、フランスの女性監督ミリアム・トネロットさんが手がける「人間の鏡としての猫」というドキュメンタリー映画。アニメーションの猫が世界中で活躍する猫に会いに行くというこの映画、日本ではほかに、熊本で水俣病の影響を受けた猫と、東京でホームレスの人と交流する猫が出演する予定。

インターネットでたま駅長が人々を楽しませる様子を見た監督は、「地域の人々から愛されるたま駅長を通して、現代の人間像を描きたい」と出演を打診。監督とカメラマンら4人が駅を訪れ、改札で利用客を迎える駅長の“仕事ぶり”や、和歌山電鉄の小嶋光信社長のインタビューを収録した。たま駅長の普段どおりのかわいい接客に「お客さんからも愛され、評判どおりの猫でした」と監督も大満足。カンヌのレッドカーペットを歩く日も間近?

(上) たま駅長の笑顔の演技を撮るトネロット監督
(下) 貴志駅での撮影の様子

今年も熱く「おどるんや!」第5回紀州よさこい祭り

8月16日(土)~17日(日) 和歌山城周辺

「おどるんや~紀州よさこい祭り~」が5年目を迎え、盛り上がりはさらにヒートアップ。和歌山城をバックに約50チーム、3,000人の踊り子が力いっぱい演舞を披露。パレードの迫力あふれる照明と音響も必見!

和歌山応援団求む。

「ふるさと和歌山応援寄附」がスタートしました

和歌山県では、世界遺産や文化財の保全、2015国体開催、美しい海づくり、森づくりなどに活用させていただきます。選択肢の中から活用方法の指定もできます。

ふるさと和歌山応援サイト www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/
※クレジットカードもご利用可能です。

EVENT

合気道の父、植芝盛平ゆかりの地・熊野に世界の合気道家が集結

~ 植芝盛平翁没後40周年記念事業 ~

10月5日(日)~13日(月) 田辺市

開祖・植芝盛平翁の没後40周年を記念し、第10回国際合気道大会が開催される。熊野本宮大社旧社地で催される奉納演武大会(11日)には、日本人、外国人合わせて総勢1,000人以上が集結予定。翁が唱えた合気道の「和合」の道は熊野の精神と結ばれている。まさに、熊野に「気」が満ちる国際大会。